

病院トツプの Cool Head, but Warm Heart 経営者魂

Vol. 15

木野昌也

社会医療法人仙養会 北摂総合病院
理事長・病院長

大阪府高槻市で最も歴史ある総合病院として知られる社会医療法人仙養会北摂総合病院は、高い専門性をもつ急性期病院として存在感を示す。それぞれの職員が自分の力を最大限に発揮できる環境づくりにこだわる木野昌也理事長・病院長は、「地域住民に安心と満足を与えるVERY BESTな病院」をめざしている。



撮影=マツダナオキ

理念のもとに全員の 力を結集することで 最高の医療を実現したい

良い医者であり、良い医療を行うのが病院長の役目

——法人理念として、「VERY BEST」を掲げた思いについてお聞かせください。

木野 1971年に大阪医科大学

を卒業後、第3内科で研修することになったのですが、そこでの出会いが大きなインパクトをもたらしました。入局したときにお世話になった恩師の鷹津正先生は臨床を非常に大事にされており、その姿勢に憧れ、まずは患者さんにとって良い医者になりたいという目標ができました。良い医者になって、良い医療を行いたいという思いの延長線上に私の病院長としての役目があると考えていますが、その原点となっています。

当院が何を大切にしているかという理念を全スタッフが共有し、そのうえで、それぞれの持ち場で現在持つ最大の力を活かし、連携をとってチームとして一つにまとまれば最高の医療が提供できます。周りから見ても、ベリーベストな医

療が提供できていると評価されたい。素晴らしいことであり、そうなることをめざしてきました。

——研修医を終えてすぐに米タフツ大学やハーバード大学に赴かれた経験も影響しているのでしょうか。

木野 医師になって3年目に、幸運なことにボストンで内科と循環器内科の臨床を4年間も学ぶことができたのは、大きな財産となりました。自分のなかで理想の医療のあり方はこれだと確信したので、帰国後、当病院の理事長だった父から病院の運営に携わるように説得され、39歳で病院長になることを決意しました。まだ大学病院で仕事をしたいという思いはありましたが、病院長として着任すると、217床の病院を変えることが自分にとっての活躍の舞台であることがわかりました。

今の病院は2006年に新築し

ましたが、それ以前の建物は古くて狭く、ボストンの最新医療機関とのギャップの大きさを痛感しました。絶対にアメリカに負けない病院をつくると決意しました。

——病院長になってどのような変革を行いましたか？

木野 実際に取り組んでみると問題は山積していました。ハード面では新たな設備を増やさなければならなかったのですが、病院運営を止めずに進めるとなると、段階ごとに時間をかけて進めていくことになります。そのためには稼働病床を減らなければならぬことも多々あり、一番大変なときには稼働する病床が110床まで下がりました。

それでも徹底してみんなと話し合いながら、最高の医療を提供したいという同じ意識で取り組み、改装に改装を重ねて10年後には、どんな患者さんにも納得いただけ

● 社会医療法人仙養会北摂総合病院

地域の核となる急性期病院として
先進・快適・安心・安全の医療を提供

地域医療支援病院、大阪府がん診療拠点病院、基幹型臨床研修病院として急性期1本に絞った専門性の高い医療を提供する。病床数は217床。総職員数は543人。新入院患者数6454名/年。手術数2,652件/年。紹介入院総数3,079件/年。紹介総数13,831件/年。

<http://www.hokusetsu-hp.jp/index2.html>



る医療が提供できると自信の持てる病院になりました。

ソフト面では、組織のあり方を変えていきました。かつて医師はヒエラルキーのトップにあり、特別な存在であるという雰囲気。医師本人にも周囲にもありませんでした。しかし、スタッフは医師の前だけ尊敬する素振りを見せて、陰では反発するということがしばしば見

Q&A 10問10答

Q1 自分の性格をひと言で言い表すと？

楽天的で猪突猛進型

Q2 弱点を1つ教えてください。

計画性に乏しく、綿密さに欠ける。
絶えず優秀なマネージャーが必要。

Q3 最近うれしかったことは？

職員の成長

Q4 今はまっているものはありますか？

経済や歴史の本を読むこと。

Q5 タイムマシンがあったら行きたいのは過去？ 未来？ その理由は？

未来。どうなっているのか確認したい。

Q6 人生で最も影響を受けた人は？

恩師である大阪医科大学の鷹津正教授

Q7 日課はありますか？

朝晩仏壇に手を合わせる。

Q8 人生最後に食べたいものは？

特にない。

Q9 今一番会いたい人は誰ですか？

亡くなったボストン時代の親友

Q10 病院トップとしてふさわしい素養は？

どんな状況のなかでも一条の光を見られること。

PROFILE

きの・まさや ● 1971年、大阪医科大学卒業。同大学第3内科入局。73～77年、米タフツ大学、ハーバード大学医学部で内科レジデント、循環器内科フェロー。77年、大阪医科大学第3内科助手。81年、同内科病棟医長、医局長。86年、北摂総合病院院長。2014年、医療法人仙養会（現・社会医療法人仙養会）理事長に就任。臨床心臓病学教育研究会会長、高槻市医師会会長などを務める。



受けられ、それではチームとして良い医療はできないと考え、改善を試みました。チームのリーダーである医師は陰になって支えてくれる人たちに目を向ける必要があります。そのことを粘り強く伝え、本当に尊敬される医師とは何かというのを理解してもらおうことでフラットな職場が実現できまし

た。
——2025年、さらに先を見据えた、地域における北摂総合病院の役割をどのように考えていますか。
木野 地域包括ケアシステムは高齢者医療を在宅で支えるというのですが、患者さんの様態が急変

したときなど、いざというときに力を発揮する急性期病院が核となつて進めていくべきだと考えています。数年前から多職種連携の会をつくっており病院、診療所、介護事業所の人たちが集まり、地域の課題を見つけてみんなで解決していくようにしています。私たちの病院はこれまでどおり急性期

に絞り、最も得意とする分野により磨きをかけ続け、別の分野で専門性を高めているところと連携しながら、施設の垣根を越えた一つのチームとして、最高の医療を提供していきたいと考えています。

また、現在ある知識や技能は過去の積み重ねによるものですが、自分たちの経験や能力をさらにブラスしたうえで次の世代に伝えていかなくてはなりません。教育とは、立派な先生から教わるだけではなく、現場で働く人が持つ力を良い形で次に伝えていくことであり、治療だけではなくそういった教育および研修機能を備えた、人が集まる「急性期のコミュニティ病院」をめざしていきます。